

● 地域医療支援学レター

LETTERPRESS
VOL.
51
SUMMER
2023
SHIMANE UNIV.

WE LOVE

ちいさ

地域医療の橋わたし



● 活動報告・セミナー報告

● リレートーク第51回

院長と卒業生が語る『益田で働く・支える・つなぐ医療』

益田赤十字病院 院長 青木 明彦 先生 消化器内科 山口 祐貴 先生

島根大学医学部
地域医療支援学講座

令和7年4月2日(水)

地域枠等特別選抜枠新入生説明会・意見交換会

【場 所】島根大学医学部講義棟1階 国際交流ラウンジ

【参加者】55名(1年生19名 上級生9名)

地域枠等特別選抜枠新入生19名を迎え、石原医学部長、椎名病院長、島根県の周山健康福祉部長のご臨席のもと開催した。石原医学部長は「多くの方が支えている、安心して学んでほしい」と述べられ、椎名病院長は「笑顔で挨拶し、支え合う姿勢が大切。努力は無駄にならない」と励まされた。周山部長からは「地域医療を支える人材として活躍を期待している」と激励があった。

新入生の自己紹介では「島根県に関心を持ち、地域医療に貢献したい」という声が多く聞かれ、強い意欲が感じられた。また、先輩学生や関係者から「友人を作り、コミュニケーション能力を培う事が大事」と自身の経験に基づいたエールが送られた。

後半には、島根県にちなんだクイズを行い、上位入賞者には景品が贈られ、会場は大いに盛り上がった。

この会を通じて、新入生たちは地域医療への思いを一層深め、これからの学びや成長に向けて力強く一步を踏み出した。今後の学生生活が実り多きものとなることを心から期待している。



令和7年6月16日(月)

医学生有志6名の企画・運営 第1弾



日本と海外の医学教育の違い
コロンビアから日本、そしてアフリカへ

【講 師】EVOL-GAMMA

講師 形岡 洋光 先生

【参加者】27名(学生14名)

【報告者】医学科6年 小坂田 葵さん

コロンビアの医学部を卒業し、国際的に活躍されている先生に講演いただいた。冒頭では、豊かな自然に恵まれる一方で、貧富の格差が大きいというコロンビア社会課題や医療制度について説明があった。

コロンビアの医学部では、「低学年に基礎医学に加えて、経営学やマナー、発明など幅広い分野を学び、3年生から臨床実習が始まる。最終学年では無医村で1年間の医療活動を行い、無医村の住民との関わりの中で、低学年で培った幅広い知識やスキルが大いに活かされている」というお話が印象的であった。

これらのお話から、コロンビアの医学生が実際に一人の戦力として現場で活躍している事に刺激を受け、また「病気ではなく人を診る医師に」「ぜひ海外に飛び出してほしい」との言葉が心に残った。

令和7年7月14日(月)

医学生有志6名の企画・運営 第2弾



Where the World Meets the Self-global
health education and transformation
through a Kenyan Context

【講 師】Mr. Michael Boyce, M. A, EdD candidate

【参加者】30名(学生15名)

【報告者】医学科4年 田中 裕一郎さん

浜松医科大学医学部よりMicheal Boyce先生にお越しいただき、先生がご尽力されているケニアでの性教育普及活動や医療キャンプの運営についてご講演いただいた。

先生は国際ラーニングサービス(ISL)と呼ばれるプログラムを率いて、オンラインで現地の子供に性教育を行ったり、ケニアで医療キャンプの運営などを行ったりしている。ケニア国内でもコミュニティにより特徴が異なるため、その土地ごとに行政から住民レベルに対して行う活動の重要性を知ることができた。

今回、地域医療セミナーでは初めてとなる英語での開催となったが、参加した学生からは英語での質問が活発になされた。その土地の特徴を知って、医療に活かすという地域医療のあり方をケニアでも垣間見ることができた。

令和7年6月7日(土)

高校生対象 しまねの地域医療セミナー(第1回)

【場 所】島根大学医学部 臨床小講堂

【参加者】高校生・既卒生57名 保護者26名

医学部進学に関心のある高校生を対象に、地域枠等の入学制度に関するセミナーを開催した。

最初に、当講座の佐野教授から地域枠制度の趣旨や概要について、島根県医療政策課から奨学金制度について説明が行われた。続いて、地域で活躍している医師より、臨床現場の実例を紹介していただいた。現役医学生からは、学業に加えて部活動や日常生活について写真を交えながら紹介してもらった。

参加者からは、「制度についてよく理解できた」「入学後・卒業後のイメージができモチベーションが高まった」「より一層地域医療を支える医師になりたいと思った」など、多くの前向きな声が寄せられた。

今後も学生生活や医療現場のリアルを伝える機会を設けていきたい。地域枠制度の理解を広げ、島根で共に地域医療を支える未来の医師が一人でも多く育っていくことを願っている。



令和7年6月20日(金)～22日(日)

第16回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会に参加して

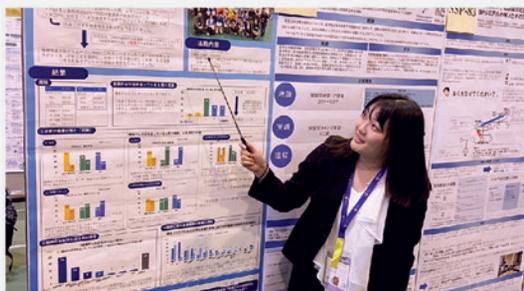
【場 所】札幌コンベンションセンター・札幌市産業振興センター

【参加者】医学生4年 川上 日輪乃さん

第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に、地域医療研究会の代表で参加した。会場は札幌コンベンションセンターと札幌市産業振興センターの2か所で、シンポジウムや講演、ポスター発表などが多数行われていた。

私は学生セッションにおいて「地域住民に対する栄養・生活習慣アンケート調査結果からの医学生の一考察」というテーマでポスター発表を行った。これは昨夏の合宿をもとに、浜田市の産業祭「さざんか祭り」で実施した医療ブースでの活動をまとめたものである。来場者に対し栄養や生活習慣に関するアンケートや測定を行い、結果を分析して発表した。初めての学会発表で不安も大きかったが、地域医療支援学講座をはじめ、多くの先生方や仲間のおかげで、安心して臨むことができた。他の学生発表やシンポジウムも非常に学びが多く、有意義な時間だった。

今後もこのような機会に積極的に挑戦し、後輩の参加も後押ししていきたい。



令和7年6月19日(木)

1年生学年会

【参加者】18名(学生14名)

贅沢弁当で満腹!



令和7年6月27日(金)

6年生学年会

【参加者】9名(学生3名)

美味しい料理に
舌鼓♪



SEMINAR REPORT

セミナー報告



CAREER

キャリアセミナー ▼



令和7年4月14日(月)

「臨床医にとっての研究の魅力」 ～海外留学の醍醐味～

【講師】島根大学医学部 腎臓内科
准教授 吉野 純 先生
【参加者】29名(学生17名)

先生は慶應大学卒業後、腎臓内科で臨床と研究の道を行ってこられた。講演では「臨床と研究の両輪」の重要性を語られ、研究の魅力は「未来の患者を救う可能性」にあると強調された。

研究テーマは「老化」で、百寿者の多い島根県を例に、加齢に伴う慢性腎不全と健康寿命の延伸に向けた取り組みを紹介された。「寿命・老化」のメカニズムを解明し、それに基づく予防・治療法の開発を目指しておられる。

大学院修了後は、14年にわたり米国で研究に打ち込み、現地で独立して研究室も運営された。海外研究の魅力として、最先端技術へのアクセス、自由な研究環境、そして多様な文化との体験を通じた視野の拡大を挙げ、研究者としての成長を実感できると熱く語られた。

先生の多岐にわたる経験に裏打ちされた講演は、学生達に実践と探究の重要性を実感させ、進路選択への視野を広げる貴重な機会となった。



令和7年5月14日(水)

産婦人科の魅力と実際

【講師】島根大学医学部 産婦人科
助教 野々村 由紀 先生
【参加者】28名(学生16名)

先生は埼玉県出身で、縁あって島根大学に入学された。学生時代には勉学はもちろんの事、部活動や遊びにと充実した日々を過ごされたそうである。

卒後の研修先は悩んだ末、島根県に残ることを決め、島根大学医学部附属病院と市中病院のたすき掛けプログラムを選択された。それぞれの病院の良さを感じることができたと話された。診療科選択では多角的に比較し、女性の一生に寄り添えること、出産の「ありがとう」の言葉と喜びを共有できることに魅力を感じて産婦人科を選ばれたそうである。

現在は専門医資格を取得され、育児に奮闘中である。先生の等身大の体験談は学生にとって将来を描く上で大いに参考となる、有意義なセミナーであった。



令和7年6月12日(木)

とある女医の選択と現在

【講師】島根大学医学部 泌尿器科
助教 小池 千明 先生
【参加者】34名(学生26名)

先生は当大学を卒業後、2010年に泌尿器科へ入局され、2015年に専門医を取得。同年に第一子を出産され、現在は4児の母でもある。当初は内科を志望されたが、研修医1年目に指導医から外科的思考が向いていると助言を受けられたそうである。先生は、腎臓への興味や手術の多様性、ライフステージに応じた柔軟な働き方ができる点に魅力を感じ、泌尿器科を選択された。泌尿器科は診療領域が広く、外来・手術・処置を通じ一貫して診療できる事にやりがいを感じていると語られた。

ご夫婦とも医師であるが、育児と仕事の両立に工夫を重ね、現在の働き方に後悔はないと話された。職場や家族の支えに感謝しつつ、自分にしかできないライフスタイルを確立してキャリアを積まれている姿が印象的であった。

COMMUNITY MEDICINE

地域医療セミナー ▼



令和7年4月22日(火)

総合診療医の働き方

【講師】島根大学医学部総合診療センター 客員准教授
総合医療学講座特別研究員 木島 庸貴 先生
【参加者】37名(学生15名)

先生は、島根大学医学部に所属され、2年前からご実家である木島医院にて地域に根ざした診療に取り組まれている。

総合診療医の呼び名や働き方について、ご自身の診療スケジュールを説明された。また、総合診療医が1つの専門分野として確立されていることや、役割に対する社会的理解の重要性について話された。

プライマリ・ケアの質を評価するには多角的な視点が求められる。先生は、診療事例を通じてこれらの視点の重要性を解説し、さらに診療所内外での連携や最新の医療知見の活用、予防医療の実践による地域の健康維持推進への取り組みも紹介された。

講演の締めくくりには、日常生活での身体活動の増加が健康寿命の延伸につながることを述べ、総合診療医として地域住民の健康を支える意義を強調された。



令和7年5月16日(金)

歴史的視点から見る新しい在宅医療の世界

【講師】東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所
同研修・研究センター長 同オレンジほっとクリニック
東京都地域連携型 認知症疾患医療
センター長 平原 佐斗司 先生
【参加者】29名(学生7名)

先生は、在宅医療、緩和ケア、老年内科、老年精神科の専門医である。現在はこれまで在宅医療を中心に携わってこられた経験をもとに、特に非がん患者へのエンドオブライフケア(EOLケア)および緩和ケアの提供に尽力されている。

今回は、古典的在宅医療の終焉や現代在宅医療の誕生といった歴史的背景を踏まえ、新たな在宅医療の展望について講演いただいた。特に、コロナ禍において欧米で制度化が進んだ「在宅急性期医療(HaH)」の紹介が印象的であった。

高齢者の急性期医療を病院ではなく自宅や福祉施設で行うこの仕組みは、日本においても早急に制度として整備する必要があると感じた。



令和7年7月12日(土)

令和7年度地域医療研究OB会

【講師】雲南市立病院小児科
特別顧問 瀬島 斉 先生
【参加者】28名(学生12名)

地域医療研究会との共催でセミナーを開催した。講師を務められた瀬島先生は出雲市のご出身で、島根大学在学中には農山村研究会に所属し、フィールドワークや読書に熱心に取り組まれた。

卒業後は「子どもの代弁者でありたい」との思いから小児科を専攻され、益田・隠岐での地域研修や、静岡こども病院での小児神経専門研修を経て、当院に赴任された。

松江市立病院での勤務時代には、自閉スペクトラム症の子どもたちと出会い、医療と教育をつなぐ支援の重要性を実感し、その実践を深められた。

医師として40年にわたる歩みの中で培われた豊かなご経験に裏打ちされながら、多職種・多分野との協働の大切さについて、熱意をもって語られた。

院長と卒業生が語る

益田で働く・支える・つなぐ医療

益田赤十字病院

〒698-8501
島根県益田市乙吉町
1103-1
Tel: 0856-22-1480(代表)
Fax: 0856-22-3991益田赤十字病院
院長
青木 明彦 先生

『他科の先生とも仲良くなろう』

当院は圏域では唯一の急性期病院であり、多くの疾患、治療に携わっています。また、日本赤十字社の務めでもあります災害時におけるDMAT、救護班の派遣も積極的に行っています。

ほとんどの診療科に常勤医がおりますが、力を入れてきた総合診療科は診療範囲が広く、院外、院内を問わず多くの患者さんを紹介していただいています。

益田医療圏の人口は5万人程度ですが、毎年3千件近い救急車も受け入れており、救急搬送患者における初期診断、診療の経験を積むことも

できます。さらに多くの科において学会の研修施設の認定を受けています。また近年では医療DXの進歩に伴い電子処方箋の導入、最新のCTの設置に加えAIによる診断技術の向上などを進めています。

当院は島根県の西端にあり、交通の便は決してよくありませんが空港があり東京へのアクセスは良好です。

小規模病院ではありますが、院内は風通しがよく団結力も強い病院だと自負しています。是非皆さんにも当院の魅力を感じてほしいと思います。

益田赤十字病院
消化器内科
山口 祐貴 先生

『益田に帰って12年経ち思うこと』

医学生の皆さん、はじめまして。私は島根大学地域推薦枠1期生で、初期研修2年目から地元益田市の益田赤十字病院で勤務しています。

消化器内科は消化管、胆膵、肝臓の3つの分野に大きく分かれています。大きな病院ではそれぞれの分野に分かれ専門性を持って治療を行いますが、当院では一人一人がすべての分野に対応できるよう、各分野の専門医に指導を受けながら、内視鏡手技や超音波下に行う手技など習得します。中核病院として、当院で検査・治療を完結するためにスキルアップし

ていくことは、地域のためであると同時に自分の自信にも繋がります。また、急性期の治療だけでなく、慢性期の治療や在宅療養にも携わっており、患者さんに寄り添い、求める医療を提供できるよう日々診療を行っています。

地域枠推薦の後輩も増え、生まれ育った地域のため後輩たちと切磋琢磨し、地域医療に貢献できることに充実感を得ています。ぜひ、一緒に頑張る仲間になってください。

「今後の予定」

キャリアセミナー

令和7年9月22日(月)
講師: 山本 慧 先生
島根大学医学部 小児科 助教令和7年10月7日(火)
講師: 吉金 努 先生
島根大学医学部 脳神経外科 講師令和7年11月予定
講師: 河原 愛子 先生
島根大学医学部 放射線科 医科医員

地域医療体験実習Ⅰ(夏季地域医療実習)

令和7年8月18日(月)~22日(金)

島根県知事表敬訪問・松江市3病院見学会

令和7年8月27日(水)

ワークライフバランスセミナー

令和7年9月12日(金)18:00~19:00

講師: 高柳 和江 先生
医療法人社団英会・元日本医科大学 准教授
一般社団法人癒しの環境研究会 理事長 笑医塾 塾長

2025オキフェスin隠岐の島

令和7年9月6日(土)~7日(日)

2025ウェスタンカーニバルin浜田

令和7年9月13日(土)~14日(日)

令和7年度地域枠等全学年会

令和7年11月14日(金)18:00~20:00

高校生対象しまねの地域医療セミナー(第2回)

令和7年12月13日(土)13:00~15:00

編集後記

表紙は、青と緑がバランス良く混ざった深みのあるティールブルーで仕上げ、涼しげで落ち着いた夏のイメージを表現しました。今号からリレートーク企画を刷新し、新たな試みをスタートさせています。島根大学医学部の地域枠を卒業した医師たちが、地域医療の現場でどのように活躍しているかを紹介する企画です。院長からのメッセージに加え、地域で働く卒業生のリアルな体験談を通じて、現場でのやりがいや魅力をお伝えしていきます。次回のレターもぜひ、ご期待ください!

島根大学医学部
地域医療支援学講座
ホームページはこちらから →